

高鍋町教育研究所

研究主題及び副題	11 - 1
主題設定の理由	11 - 1
研究の目標	11 - 1
研究仮説	11 - 1
研究内容	11 - 1
研究の全体構想	11 - 2
研究の実際	11 - 3
1 道徳にキャリア教育の視点を取り入れた実践	11 - 3
(1) 小学校における実践 高鍋東小学校5年生	11 - 3
(2) 小学校における実践 高鍋西小学校3年生	11 - 4
(3) 中学校における実践 高鍋東中学校2年生	11 - 5
(4) 中学校における実践 高鍋西中学校3年生	11 - 6
2 アンケート調査結果	11 - 7
3 児童生徒や教職員への啓発	11 - 8
(1) 「明倫の教え」を学ぶ研修	11 - 8
(2) 「新明倫の教え」の作成	11 - 8
(3) 教職員に向けての研修	11 - 9
4 家庭や地域への啓発	11 - 9
(1) リーフレットの作成	11 - 9
研究の成果と課題	11 - 10
1 研究の成果	11 - 10
2 今後の課題	11 - 10
【引用・参考文献】	
【研究同人】	

研究主題及び副題

夢や希望の実現に向かってたくましく生きる児童生徒の育成
～ふるさとの心をもとにした道徳からキャリア教育を考える実践を通して～

主題設定の理由

高鍋町は、蚊口浜や高鍋湿原などの豊かな自然に恵まれ、その長い歴史の中で築き上げられた形あるものや「明倫の教え」「石井十次の人間愛の精神」などが受け継がれている。

本研究所では、昨年度「ふるさとへの愛と誇りをもつ児童生徒の育成～ふるさと学習からキャリア教育を考える実践を通して～」を研究主題として、生活科・総合的な学習の時間にキャリア教育の視点を加えた研究に取り組んできた。町内全4校において研究授業を実施したり町教育職員研修会において研究の概要を発表したりして、キャリア教育を通して児童生徒にどのような能力を育てることが必要ななど基本的な考え方は理解された。

しかし、教職員を対象としたアンケート調査結果で、「キャリア教育に関する専門的知識の不足」や「教職員の共通理解の不十分さ」などが課題として残された。また、児童生徒を対象としたアンケート調査結果を通して、「友達の良さを認め、協力する態度は見られる。」が、「自主性や積極性が弱く、自信を欠いた行動が目につくこと」や「目標の実現への努力に消極的であること」が指摘された。

そこで、本年度は、教職員への啓発や研修の機会を充実し、児童生徒に対しては、夢や希望を抱き、その実現に向かって主体的に学ぼうとする意欲を培い、根気強く行動する態度を身に付けさせたいと考えた。さらに、家庭や地域に対しては、キャリア教育についての理解を得ることは重要であり、育てたい児童生徒像を示しながら学習環境を整える必要性があると考えた。

これらの取組は小・中学校9年間を通したものとし、町内全4校の連携による共同研究とする為に、道徳にキャリア教育の視点を加えた研究とすることにした。

ふるさと高鍋の歴史の中にある「明倫の教え」や「石井十次の人間愛の精神」などを先人に学ぶとともに今を生きる人々の中にあるふるさとの心を学ぶことは、児童生徒が「自己の在り方」や「人間としての生き方」を考える上で有効であり、将来に向かって豊かな人生観や望ましい職業観・勤労観の基礎を養うことにつながると考え、本主題及び副題を設定した。

研究の目標

小・中学校において、ふるさと高鍋の歴史や文化にふれながら道徳教育の在り方をキャリア教育の視点から見直して、その実践化を図る手立てを工夫したり、学校・家庭・地域が連携して「生きること」や「働くこと」に関する道徳性の育成に資する体験活動を進めたりすることで、夢や希望の実現に向かってたくましく生きる児童生徒を育成する。

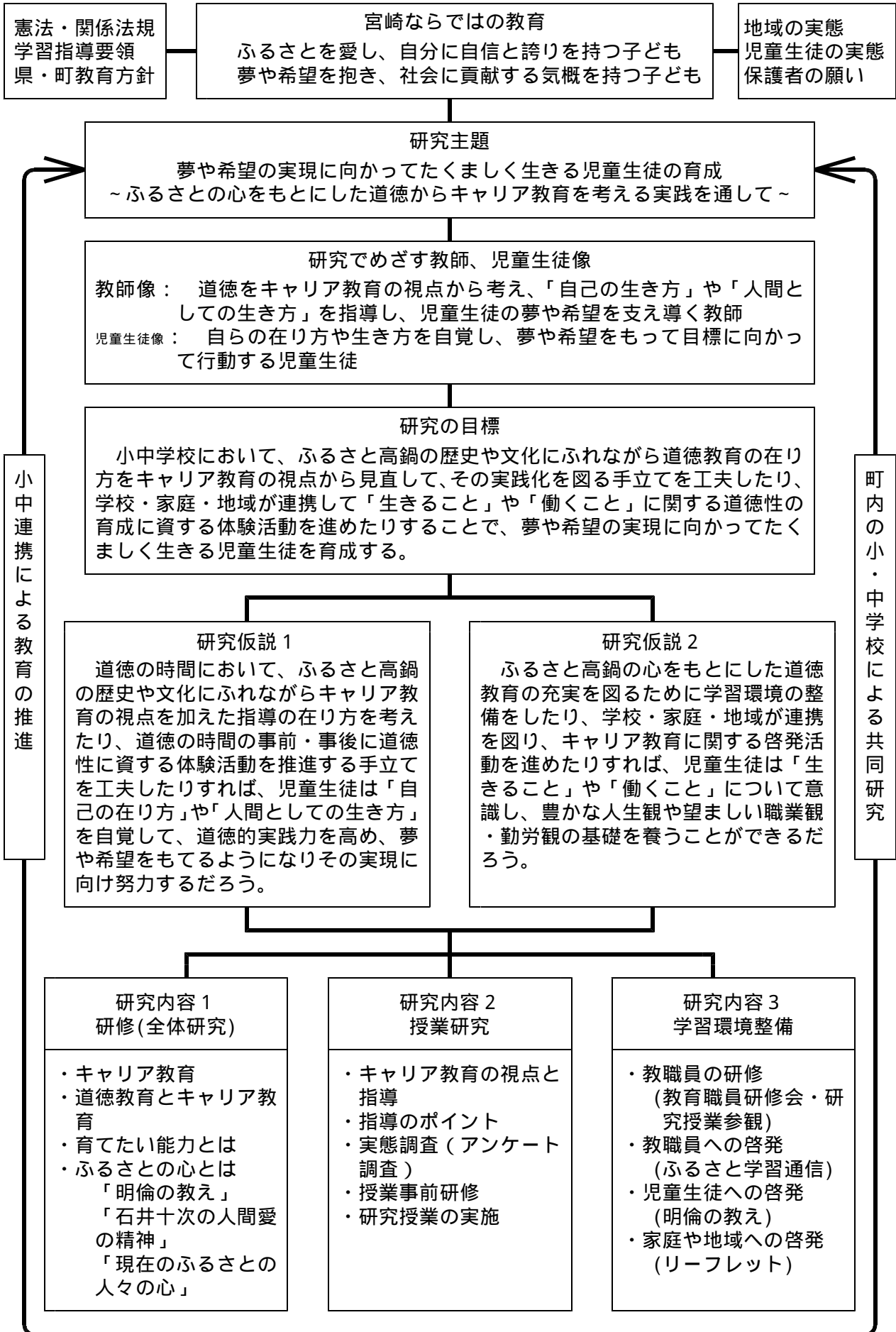
研究仮説

- 1 道徳の時間において、ふるさと高鍋の歴史や文化にふれながらキャリア教育の視点を加えた指導の在り方を考えたり、道徳の時間の事前・事後に道徳性に資する体験活動を推進する手立てを工夫したりすれば、児童生徒は「自己の在り方」や「人間としての生き方」を自覚して、道徳的実践力を高め、夢や希望を持てるようになりその実現に向け努力するだろう。
- 2 ふるさと高鍋の心をもとにした道徳教育の充実を図るために学習環境の整備をしたり、学校・家庭・地域が連携を図り、キャリア教育に関する啓発活動を進めたりすれば、児童生徒は「生きること」や「働くこと」について意識し、豊かな人生観や望ましい職業観・勤労観の基礎を養うことができるだろう。

研究内容

- 1 全体研究
 - ・ キャリア教育
 - ・ 道徳教育とキャリア教育
 - ・ 児童生徒に身に付けさせたい能力
 - ・ ふるさとの心
「明倫堂学規」「石井十次の精神」「現在のふるさとの人々の心」
- 2 授業研究
 - ・ キャリア教育の視点と指導
 - ・ 指導のポイント
 - ・ 実態調査（アンケート調査）
 - ・ 授業事前研修
 - ・ 研究授業の実施
- 3 学習環境整備
 - ・ 教職員の研修
（教育職員研修会・研究授業参観）
 - ・ 教職員への啓発（ふるさと学習通信）
 - ・ 児童生徒への啓発（明倫の教え）
 - ・ 家庭や地域への啓発（リーフレット）

研究の全体構想



Ⅶ 研究の実際

1 道徳にキャリア教育の視点を取り入れた実践

(1) 小学校における実践 高鍋東小学校5年生

ア 主題名 温かい心で 2-(2)思いやり・親切

イ 本時のねらい

- 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って温かく接していこうとする気持ちを育てる。



【終末の説話を聞いている児童】

ウ ふるさと学習及びキャリア教育の視点から

- 岡山に孤児院を開く場面では、大変な決意があった一方で、医師としての勉強もあり、十次の心の葛藤があったことを押さえる。
- 自分自身・身近な生活を見つめる場面では、発表に対して、今の自分を認め今後の生き方へと広げていけるよう励まし・称賛をする。
- 教師の説話を聞く場面では、「生きること」「働くこと」に関わる道徳的実践力を高め、余韻をもって終わるようにする。

エ 指導過程と児童生徒の実際の様子

5 学習指導過程	学習内容及び活動	主な疑問と 予想される児童の反応	指導上の留意点	資料・準備
導入 (5分)	1 古い医学書一冊の帯を見て、石井十次と葛藤する。	○ これを見て、思いがけず人物はいまなんだ。 ・ 分からないな。 ・ 石井十次かな。 ○ 十次は、どんなことをして働いたか、知っているか。 ・ 葛藤の場面を見た。 ・ 孤児院を開いた。 ○ 十次は、人間的にどんな人だか、知っているか。 ・ 優しい。 ・ 愛想の強い人。	○ 十次ゆかりの物を見たり人物像に際して想を述べたりして、本時学習への意識付けを図る。 ○ 学習-生活経験より十次の葛藤について知っていることを挙げさせる。 ○ 物語-エピソードよりも、本時に關わる人物像的な一面をつかませたい。	古い医学書 CD ワークシート
展開前段 (15分)	2 「この父 石井十次」を讀んで話し合う。 ○ 資料の場面を聞く。 ○ 心に残った場面を発表する。 ○ 遺児の子どもに、男の子を預かってほしいと言われた時の十次の気持ちを確認し合う。 ○ 3人の子どもを預かって、岡山に孤児院を開くことになった時の十次の気持ちを話し合う。 ○ 医学書やノートを燃やした時の十次の気持ちを知る。	○ 人の身について考えたり深く感じたりする十次の人間性を見ながら聞きましょう。 ○ どんな場面が心に残ったか、葛藤が十次に男の子を預けている場面。 ・ 十次が医学書やノートを燃やしている場面。 ○ 男の子を預かってほしいと言われた時、十次の気持ちはどうだったか。 ・ 葛藤にできるだろうか。 ・ 食事など大変だろうが、何とかしてやろう。 ○ 岡山に孤児院を開くことになった時、十次の気持ちはどうだったか。 ・ 子ども達のお世話をしたい。 ・ 医師としての葛藤はどうしよう。	○ 葛藤を聞きながら、写真-場面-葛藤-葛藤場面を繰り返す。 ○ 場面ごとに上り話の流れ-十次の心情の変化をつかませる。 ○ 心に残った場面の発表させ、その後の話し合いにつなげる。 ○ 何となくやりたいと思う場面、困難な場面も多く、十次自身も思い悩んだ気持ちをつかませる。 ○ 預けた人の立場になって行動した十次の決心を感じさせる。 ○ 十次の気持ちと違っても温かく接しようとする人間性を探して、自分なりの思いをワークシートに記入させる。 ○ 書く時間を確保し、その後、できるだけ多く発表させる。 ○ 大変な決意があった一方で、医師としての勉強もあり、心の葛藤があったことを押さえる。 ○ 葛藤の続きを葛藤で繋ぎ、十次の人生の転機となった出来事があったことを知らせる。	編纂CD 十次の写真 十次の場面 場面説明資料 ワークシート
展開後段 (15分)	3 自分自身・身近な生活を見つめて話し合う。	○ 人は親戚にしたいと思うのはどうですか。 ・ 友達も喜んでくれるから。 ・ 人の役に立ちたいから。	○ 葛藤を聞き合い、葛藤に対する考えを促させる。 ○ 発表に対して、今の自分を認め今後の生き方へと広げていけるよう励まし・称賛をしよう。 ○ 児童の声を聴き取りながら、葛藤にしたりされた時の心構えを改めて振り返らせる。 ○ 「生きること」「働くこと」に関わる道徳的実践力を高め、余韻をもって終わる。	ワークシート
終末 (5分)	4 教師の説話を聞く。 ○ 葛藤にされたり葛藤にしたりした家庭の声を聴かせる。	○ 葛藤にされたり葛藤にしたりした家庭の声を聴かせる。	○ 児童の声を聴き取りながら、葛藤にしたりされた時の心構えを改めて振り返らせる。 ○ 「生きること」「働くこと」に関わる道徳的実践力を高め、余韻をもって終わる。	CD ラジカセ カセット

導入

- 縄の帯の話だから、石井十次のことかな。
- 石井十次は、孤児の世話をして、孤児院を開いた人です。
- 十次は、優しい人だったと思います。

展開前段

- 十次が、医学書やノートを燃やしている場面が心に残りました。
- 男の子を預かってほしいと言われた時、十次は何となくやりたいという気持ちでいっぱいだったと思います。
- 孤児院を開くことになった十次は、「勉強はどうしよう。」と迷ったと思います。
- これからは、孤児のお世話をして生きていこうという強い気持ちもあったと思います。

展開後段

- 本当の美しい心は、人に親切にすることだと思うからです。
- 親切にすると喜んでもらえるし、自分も嬉しい気持ちになるからです。

終末

- 今度は、自分が困っている人を助ける時だと思いました。

オ 考察

- 書く活動を取り入れ、書く時間を十分に確保したことにより、ワークシートに自分の思いを書くことができ、その後の話し合いを豊かなものにした。
- 個人記録カードにより書いた内容を把握し、意図的指名で児童の考えを深めたり広めたりするのに効果的であったが、十分に書けていない児童への対応をすべきだった。
- 終末の説話は、児童の思い・生活を見守り、温かい心を醸成する上で十分な内容で、今後の意欲を引き起こすものであった。
- 中心発問の発表で十次の気持ちだけでなく人物像にも迫り、主題の思いやり・親切、キャリア教育に関わる生き方・考え方をもっと味わわせることが必要だった。

(2) 小学校における実践 高鍋西小学校3年生

ア 主題名 伝統を受けつぐ 郷土愛4ー(5)

イ 本時のねらい

○ 郷土の行事などに進んで参加し、郷土の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。

ウ ふるさと学習及びキャリア教育の視点から

○ 高鍋町の伝統と文化を知り、地域の行事や活動に興味をもたせ、その意味を考え、郷土の行事などに進んで参加し、郷土の人々や文化に親しもうとする心情を育てることをねらいとしている。

○ 資料の伝統である祭りだいを通して、高鍋町のまつりの写真やDVD、エイサーで使う太鼓を見せ、祭りに参加することは、地域のためになることに気付かせるようにする。その上で、自分で積極的に参加しようとする意欲を高めることができるようにする。

エ 指導過程と児童生徒の実際の様子

段階	学習内容及び活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点(キャリア教育の視点から見て特に重要なこと)	資料・準備
導入 3分	1 祭りの音と、高鍋町の祭りの写真を見せ、祭りの歴史を振り返らせる。	○ 今から音当てクイズをします。何をしているところでしょう。 ・お祭りをしているところ ・みこしを担いでいるところ ○ 次は写真を見せませう。この写真は高鍋町のお祭りの写真ですが、なんというお祭りでしょう。 ・にうじんさん) 祭り・町内) 祭り	○ 音当てクイズをして、祭りについて学習することを知らせる。 ○ 高鍋町の祭りの写真を見せ、何という祭りなのかを発表させ、資料への興味関心を高める。	お祭りの音(1) 高鍋のお祭りの写真
展開前段 28分	2 「祭りだいを」読んで話し合う。 ○ 資料の鑑賞を聞く。 [約4分] ○ おはやしをする気はないかと言われ「少し考えさせてね」と答えた良子の迷いの気持ち	○ 父に「おはやしをする気はないか」と言われたが「少し考えさせてね」と言った時の気持ちはどんな気持ちだったか。 ○ おはよしの練習をしながら、良子はどんなことを考えたか ・青木さんが教えてくれるからがんばらなくて。 ・むずかしいな。うまくできない。	○ 鑑賞を聞いた後、山本やおはよしの補足説明をする。 ○ やってみたいと思う反面、自分にできるかという不安があることから、迷う気持ちをつかませる。 ○ 村人たちの夏祭りに対する熱い思いをしっかりと伝え、自分への期待に十分に答えさせる。 ○ おはよしの難しさや大変さを児童の発言から引き出す。 ○ 祭りに参加して得ることができた達成感、郷土への意識の高まりに共感させる。 ○ 郷土への愛着を感じ、何かを添えていきたい、大切なものを継承していこうとする気持ちに気付かせる。	劇脚本 山本のお祭りはっぴ祭りDVD 場面絵巻
	3 青木さんや先輩に教えてもらいながら、おはよしの練習をしている良子の気持ち 4 祭りの最中に山本さんと顔を見合わせて思わずにっこりした良子の気持ち	○ 山本さんと顔を見合わせて、思わずにっこりした時の良子の気持ち ・一緒に練習してきてよかった。 ・いい祭りになって、思い出ができた。 ・来年もまたでれるといいな。	○ 高鍋町の祭りのDVDやエイサーで使う、たいこやはっぴを見ることで、高鍋町の祭りへの興味・関心を高める。	場面絵巻 ワークシート
展開後段 9分	5 高鍋町の祭りのDVD(1分程度)や写真を見る。 6 ワークシートに、高鍋町に伝統的な祭りがうつがれていることをどう思うか、感想を書く。	○ 地区や高鍋町の行事に参加したことがありますか。また、高鍋町にお祭りがあることをどう思いますか。	○ 高鍋町の祭りのDVDやエイサーで使う、たいこやはっぴを見ることで、高鍋町の祭りへの興味・関心を高める。	たいこはっぴ ワークシート
終末 5分	7 ワークシートに書いた感想を発表する。	○ ワークシートに書いたことを発表しましょう。	○ 感想を発表させることで、高鍋町の祭りの伝統を受けついでいこうとする気持ちを共有する。	

導入

・「電車の音」「祭りの音」
「今日は、祭りについて勉強するんだ。」

展開前段

・「自分一人で、できるかな。」
・「失敗したら、どうしよう」
・「友達がいたらできそうかも」

・「教えてくれているから、がんばって練習しよう。」

・「やっぱり、祭りに参加してよかった。」
・「来年は、友達もさそおう」

展開後段

・「高鍋町の祭りに参加したことがある。」

終末

オ 考察

○ CD、動画、はっぴなどの資料を効果的に使用することで、高鍋町の祭りについて想起することができた。

○ 展開後段のワークシートの書かせ方が難しかった。今日の授業の感想を書かせても十分な振り返りになったのではないか。

○ 地域で実際に祭りなどを支えている人の話を聞けるとよりよい終末になったのではないか。



【高鍋町の祭りのDVDを見ている】

(3) 中学校における実践 高鍋東中学校2年生

ア 主題名 自己理解・個性の伸長 1 - (5)

イ 本時のねらい

将来を見つめ自己の向上を図り、普段の生活から充実した生き方を目指す態度を育てる。

ウ ふるさと学習及びキャリア教育の視点から

将来に向けて意識を高めつつ、自己のもつ個性の発見や伸長を図るために今何を考えようとする態度を育てる。

自分の経験と将来の生き方との関係を理解し、主体的に考えさせることで、基礎的・汎用的能力のキャリアプランニング能力を育むための基盤となる価値観形成につなげたい。

エ 指導過程と児童生徒の実際の様子



【発表の様子】

段階	学習内容及び学習活動	主な疑問と予想される生徒の反応	資料
導入(12分)	1 石井十次について 2 「孤児の父 石井十次」の鑑賞を話し合う。	○ 高鍋出身で、孤児救済をした人。石井十次についてどう思いましたか。 ○ 鑑賞した鑑賞者の意見について、自分自身も考えたい。石井十次は誰にお願いをする。	資料1 CD 資料2 用紙
展開前段(20分)	3 グループ別に分かれて、石井十次について話し合う。 4 グループ別で、石井十次について話し合う。代表者発表。	○ 石井十次は、誰に何を頼んでいるのか。 ○ グループで話し合った内容を、代表者が発表する。	資料2 用紙 紙 マ グ マ ツ ネ
展開後段(13分)	5 自分自身について、自分を見つめる。	○ 自分自身について、自分を見つめる。	
結末(5分)	7 職場体験学習の様子を撮影した写真を見せる。	○ 職場体験学習の様子を紹介し、写真を見せる。	資料3 タ レ ビ デ オ

導入

自分だったら、今まで医者を目指してきたのだから、医者の道を選ぶと思う。

石井十次はすごい

展開前段

縄の帯のエピソードでは他に対する思いやりや優しさを感じた
新天地岡山でのエピソードでは、毎日の記録をつけて、毎日反省をしていた。

展開後段

人に流されるような弱い心をもった人ではなく、自分の意志をもった強い心と石井十次のように人のことを一番に思えるようになるために、周りにしっかり目を向けなければならないと思った。

オ 考察

職場体験学習の様子を撮影した写真を見せることで、自己存在感をもたせ、将来への目標意識をもたせることができた。

話し合いに時間をかけたことでいろいろな考えを引き出すことができたが、書かせる所で時間が不十分になり、考えをさらに深めていくまでに至らなかった。

(4) 中学校における実践 高鍋西中学校3年生

ア 主題名 人間愛・思いやり 2-(2)

イ 本時のねらい

- 社会の発展のために尽くすことの大切さを理解させ、人間として生きる喜びに気づき、自らの道を切り拓いていこうとする態度を育てる。

ウ ふるさと学習及びキャリア教育の視点から

- 高鍋町の偉人を挙げることで、自分の住む町に愛着と誇りを持つ土壌を作ることができる。また、進路を決定する指針として、世の中のために何をするかという考え方を知ることができる。

エ 指導過程と児童生徒の実際の様子

指導過程			
	学習内容及び活動	指導上の工夫・留意点	資料
導入	1 石井十次について知っていることを発表する。	○ 本時の学習にあたって、必要な知識を共有する。 ・孤児の父 ・繩の帯	・写真または動画
展開前段	2 十次の年表を見ながら紹介する。 3 十次に関する資料を読んで話し合う。 (1)「思わぬ縁い(16歳)でつらい思いをした時の十次の心の支えは何だったか。 (2)「医学書を焼く」(24歳)で、十次の気持ちはどうだったか。 (3)「最後の別れ(50歳)で、十次の気持ちは考える。	○ 16歳、24歳、50歳に焦点をあてることを確認する。 ・それぞれの発問に対し、ペアで話し合わせる。 ○ 孟子の言葉と人との出会いが、困難を受け入れ、活路を見出すきっかけとなったことに気づかせる。 ◎「働くこと」の重要性に意識が向いていることに気づかせる。 ○ 条件としてでなく、世の中の流れや自分のありたい姿から仕事を選ぶことに気づかせる。 ○ 十次の生涯を支えたのは深い人間愛であったことに気づかせる。	・十次の年表 ・ワークシート
展開後段	4 石井十次の生き方から学んだことについて話し合う。	◎ 人間的な生き方や温かい人間愛にふれてきたことに気づかせる。	
終末	5 教師の説話を聞く。	◎ 今後の生き方に生かせるように実践化への意欲付けを図る。	

導入

- 「孤児院をつくった人だ」
- 「自分の帯を友人にあげて、自分は繩の帯をしめた」

展開前段

- つらい時に心の支えとするのは、「友達、家族、あきらめない心、将来の夢、音楽」が出た。十次の場合は、「言葉と人間」との出会い。
- 職業を選ぶ条件は、「給料、休日の数、労働時間、楽しさ、人のためになるか」等が出た。十次は、「やる人がいない仕事」を選んだ。

展開後段

- 十次は、優しい心を持っていた。

終末

- 十次を支えてきたものは、すべての人間への向けられた愛、人間愛であった。

オ 考察

- 小学校から学習している人物をとりあげて自分の立場に置くことで親近感を持って考えることができた。
- ペアによる考えの共有で、発言しやすい環境できた。
- 世の中に必要とされる仕事を選ぶという考え方に触れることで、進路選択のひとつの指針を示せた。



【石井十次について知っていることを発表】

2 アンケート調査結果

(1) ねらい

町内小中学校の抽出児童生徒に、キャリア教育に関わる実態調査を実施することで、より実態に即した研究内容とし、研究推進に向けた問題点と課題を把握することを目的とする。

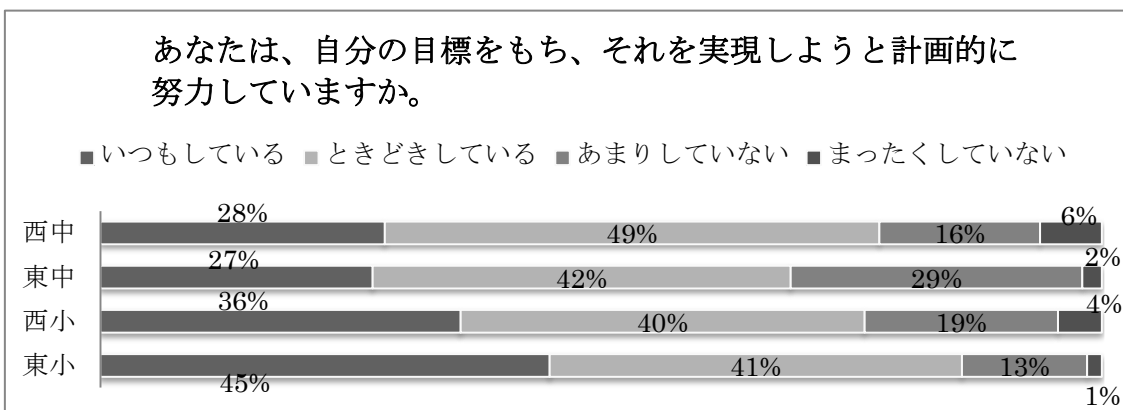
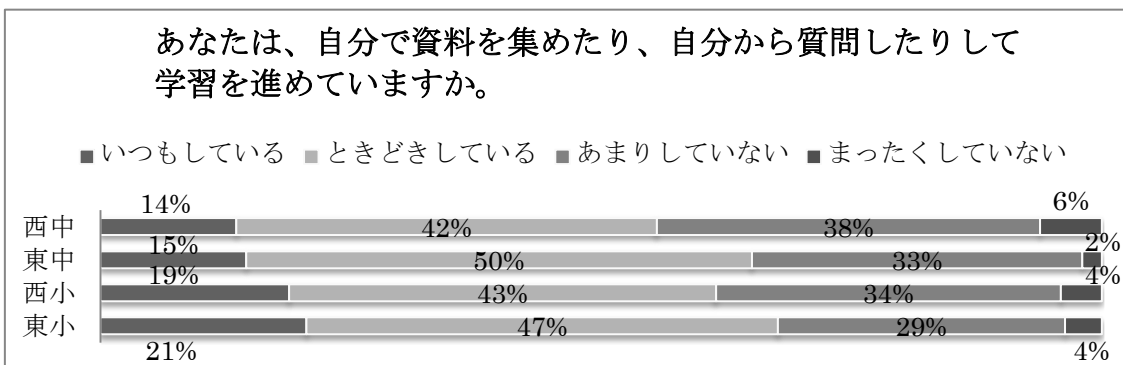
(2) 調査の対象

児童生徒…東小 3～6 年抽出学級児童 136 名	西小 3～6 年抽出学級児童 122 名
東中 1～3 年抽出学級生徒 102 名	西中 1～3 年抽出学級生徒 81 名
計 441 名	

(3) 質問項目について

「あなたは、自分で資料を集めたり、自分から質問したりして学習を進めていますか。」「あなたは、自分の目標をもち、それを実現しようと計画的に努力していますか。」等、基礎的・汎用的能力の育成に関わる項目を学習編、生活編それぞれ 8 つの質問にまとめて、アンケート調査を実施した。

(4) アンケート調査の結果（抽出）



(5) 考察

- 主体的に学習に臨んだり、調べ学習に取り組んだりすることに苦手意識を抱いている児童生徒が 3 人に 1 人の割合で存在している。そのことにより、調べ方や資料収集の仕方など学び方を学ばせる指導の必要がある。
- 発達段階により、目標に対する努力に差が見られる。これは、目標のおき方がより現実的になってきたことからと考えられる。キャリア教育の視点をもとにした、様々な体験活動や授業を通して、夢や希望を抱かせたり、目標に向けて努力したりすることの大切さを味わわせることが重要である。

3 児童生徒や教職員への啓発

(1) 「明倫の教え」を学ぶ研修

高鍋町に古くから伝わる「明倫の教え」についての見識を深めるため、宮崎県文書センター 主席運営嘱託員の永井哲雄先生を講師に招き、研修を行った。

「明倫の教え」とは、高鍋藩第7代藩主秋月種茂が創立した高鍋藩校の「明倫堂学規」を基にした教育の基本理念である。

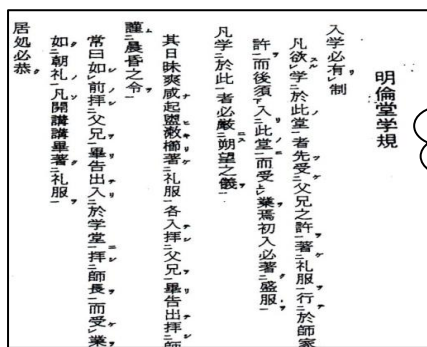
「明倫堂学規」は、18項目の内容から成り、その核となるのは「修己」の考えである。講演の中で、「親や教師、子どもも皆、自分を磨き、高めることが大切である。家庭での親と学校での教師の双方からの支えで、子どもの修己は成就する。」と説明された。この教えの基本は、いつの時代も変わらず、現代の教育に携わる者にとっても、学ぶべきところの多い教えであると言える。研修を通して、これまでの歴史の重みを感じながら「明倫の教え」についての理解を深めることができた。



【研修会の様子】

(2) 「新明倫の教え」の作成

高鍋町教育員会が取り組んでいる「新明倫の教え」の作成に携わった。本研究所では、児童生徒に「明倫の教え」を具体的に実践化させたいと考え、「明倫堂学規」を基に「新明倫の教え」として抽出することに取り組んだ。現代の言葉や生活に合わせて「明倫堂学規」を分類、整理し検討を加えた。また、児童・生徒に身につけてほしい項目や小学生にもわかりやすい言葉などを考えながら取組を進めた。最終的には、講師には監修者としての立場からも指導を仰ぎながら、以下の8項目にまとめた。



【明倫堂学規 原文の一部】

現代の生活に合わせて分類・整理

項目群	仮の解釈
1	学校（という社会）には、きまり、順序 子ども親も先生も守る。 ※この項は総則にあたり、そのほか親と （生徒）では「学ぶ心を行動」で示さな とも含む。
2・3	学校では学年・学期・一週間・毎日（時 り、家では生活のきまり（起床・就寝・イ これをきちんと守る

【整理・分類した表の一部】

現代の言葉に変え、
8項目にまとめる

新明倫の教え

私たちは、高鍋町に伝わる「明倫堂学規」の精神を「新明倫の教え」として受けつぎ、ふるさとへの愛と誇りをもって、自分を磨き高めるように努めます。

- 一 学校・家庭・地域のきまりを守り、礼儀正しくします
- 一 周りの人に居場所を知らせませす
- 一 歩く、見る・聞く・話すを正しくします
- 一 身だしなみを整え、食事に気をつけます
- 一 姿勢、読み・書きを正しくします
- 一 整理・整頓を心がけます
- 一 年上を敬い、同年と親しみ、年下を慈しみます
- 一 志を高く、学業を修め、自分のよさを生かします

平成二十五年 二月一日制定
高鍋町教育研究所

【新明倫の教え】

今後は、高鍋町内小中学校に掲示等し、「新明倫の教え」を広め、実践化していく。

(3) 教職員に向けての研修

○ 高鍋町小・中学校教育職員研修会

夏季休業中の本研修会において、昨年度の本研究所の研究内容および本年度の取組についての説明を行った。この研究発表は、研究の概要や研究員の活動を知らせる良い機会となった。

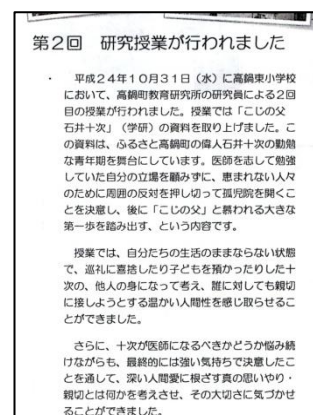
また、教職員に「明倫の教え」について理解してもらうために、前述の永井先生による「明倫堂の創立とその教育」を演題とする講演を設定した。講演で、高鍋町の教育の歴史について理解を深めることができた。児童生徒の指導に生かせる内容もあり、今後「新明倫の教え」を広め、実践化していく上で意義のある研修となった。

○ ふるさと学習通信の発行

本研究所の取組を町内の教職員に紹介するために、「ふるさと学習通信」を発行した。本年度の研究内容や研究員の活動の様子などを掲載し発行することで、研究所の取組について理解や協力を得る一助となり、研究の充実につながった。

「ふるさと学習通信」では、以下の内容を取り扱った。

- ・ 高鍋町小・中学校教育職員研修会の様子
- ・ 各学校の研究授業の様子
- ・ 事後研究会の様子
- ・ アンケート調査結果



【ふるさと学習通信の一部】

4 家庭や地域への啓発

(1) リーフレットの作成

本研究所では、昨年度からキャリア教育に関する研究に取り組んできたが、家庭や地域への啓発が十分ではなかった。

そこで、2ヶ年にわたり研究しているキャリア教育について、家庭や地域への啓発を行うことを目的としてリーフレットの作成に取り組んだ。

キャリア教育の概要や考え方、2ヶ年にわたる本研究所の取組について知らせ、キャリア教育についての理解を図ることとした。

リーフレットには、以下の内容を掲載した。

- ・ キャリア教育の概要
- ・ キャリア教育の考え方及び学校教育における位置づけ
- ・ 研究授業の様子
- ・ 作成した資料の紹介
 - お仕事図鑑
 - 人材バンク一覧表
 - 「新明倫の教え」



【リーフレットの一部】

Ⅷ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 昨年度は生活科及び総合的な学習の時間を通して「職業観・勤労観」、本年度は道徳を通して「生き方・考え方」というように異なった視点で研究を深めたことにより、キャリア教育に関して様々な考え方及び見方・指導法を学ぶことができた。
- 学習指導案の形式を作成し、町内4小・中学校において研究授業を実施したことで、キャリア教育の視点から道徳の時間を見直し、具体的な授業イメージをもてるようになった。
- 他の学校の授業を参観したりワークショップ型の研修による事後研究会が充実したりしたことで、研究員自身の意識が深まり、その成果や課題を生かしてその後の研究推進に役立てることができた。
- どの授業でも思った以上に児童生徒が石井十次に関する知識があり、十次を通して「ふるさとへの心」や「人間愛」を学ばせることに間違いがなかったと確信できた。
- 講師の先生のご協力により、本当の「明倫の教え」とはどのようなものか、研究員自身の知識を向上させることができたし、不易の部分で高鍋町に根付いている精神を強く見ることができ、大変有意義であった。
- 教職員向けの「ふるさと学習通信」を昨年度より継続発行できていることにより、研究所の取組を紹介したり研究内容を啓発したりすることができ、研究員の活動を町教職員に広めることができた。

2 今後の課題

- 道徳の時間だけでなく、心を耕す場としての「道徳」をより実践的に考えさせたり、実践する場として「学級活動」などのように、他の時間にも授業を広げることが出来れば、更にキャリア教育のねらいに深く迫ることができると思われる。
- 実態調査を早い時期に実施し、その結果から今後の取組を考えていく必要がある。
- 継続研究であったので、昨年度から本年度にかけて取り組んだ「お仕事図鑑」「人材バンク」「新明倫の教え」「リーフレット」に関して、今後、計画的に振り返ったり繰り返し活用したりしていく必要がある。
- 「ふるさとへの心をもとにした道徳からキャリア教育を考える実践」の更なる充実を図る為に、今後は多くの実践を通じた検証が必要である。

【引用・参考文献】

- | | |
|-------------------|--------------|
| ・第二次宮崎県教育振興基本計画 | 宮崎県教育委員会 |
| ・小学校キャリア教育の手引き | 文部科学省 |
| ・中学校キャリア教育の手引き | 文部科学省 |
| ・小学校学習指導要領 | 文部科学省 |
| ・中学校学習指導要領 | 文部科学省 |
| ・高鍋藩校『明倫堂』 | 高鍋町教育委員会 |
| ・石井十次の道徳の資料 | 高鍋町教育委員会 |
| ・石井十次小伝 | 財団法人 石井十次顕彰会 |
| ・平成20～23年度教育研究報告書 | 高鍋町教育委員会 |

【研究同人】

所長	菅嶋 稔						
研究指導員	幸丸 義信						
研究員	小松 誠也	三輪 宏一 (高鍋東小)	安井 里子	磯貝 恵美 (高鍋西小)			
	鷗野 和幸	吉田 健太郎 (高鍋東中)	甲斐 浩記	山路 理恵 (高鍋西中)			